

第45回 東海ダービー

優勝賞金500万円(ダノンシャンティ賞)

昨年は金沢からの遠征馬、ケージキンカメが逃げ切り勝ち。今年も名古屋、笠松、金沢所属の各馬が、頂点を目指して鎬を削る。

注目の競走馬



ハナノパレード

父 ゴールドヘイロー **注目点** 2歳時にJRA認定競走を2勝して、年明け以降は重賞に出走し、3着以内をキープ。駿蹄賞では2着

母 カミノヤマレンジャ

母父 アジューケーティング

馬主 坂野 理三郎

調教師 迫田 清美

生産者 備大作ステーブル

に8馬身差をつけて逃げ切っており、東海ダービーでも主導権を取って、そのまま押し切りを狙いたいところだ。



キモンダッシュ

父 コパノフウジン **注目点** JRAのダート短距離で1勝を挙げ、3月から愛知に移籍。当初の2戦はひと息だったが、距離が1600m

母 コパノチカチャン

母父 ワイルドラッシュ

馬主 小林 祥晃

調教師 川西 毅

生産者 西村 和夫

に延びた3戦目を逃げ切った。父のコパノフウジンは短距離で活躍した馬だが、おじに中長距離で活躍したルースリンドがいる血統は魅力的だ。



ミトノレオ

父 ワンダースピード **注目点** 6月に北海道でデビュー勝ちを飾り、10月からは愛知所属。その後はムラのある成績だったが、3月

母 リヒター

母父 フォーティナイター

馬主 竹内 三年

調教師 川西 毅

生産者 山口 義彦

以降は好走続き。笠松の新緑賞を制し、水沢の留守杯日高賞でも2着に入線した現況は、父の成長力が発揮されてきたからかもしれない。

コース紹介

名古屋競馬場 1900m

- 右回りコース
- 1周1100m
- 幅23~25m
- ダービー出走可能頭数12頭



コース 4コーナーを曲がり終わった地点からゴール板までの距離は、日本の競馬場のなかでもっとも短い194m。そのぶんカーブはゆるやかで、全体的にはスピードがある先行馬が有利となっている。その反面、外枠から流れに乗って走った馬が台頭するケースもしばしば。あまり加減速をしないでうまく立ち回ることが、好走への条件のひとつになっているのかもしれない。

アクセス 名古屋駅から「あおなみ線」に乗車して、所要12分の名古屋競馬場前駅から徒歩3分という、とても行きやすい競馬場。「あおなみ線」の往復きっぷの復路券を総合案内所に持参すると、特別観覧席グリーンホール(通常500円)に無料で入ることができる(先着順)。名鉄の神宮前駅、地下鉄の東海通駅から路線バスで行く方法もある。また東海通駅からは、徒歩15分前後で競馬場に着ける。

単勝	<input type="radio"/>	枠番連複	<input type="radio"/>	馬番連複	<input type="radio"/>	ワイド	<input type="radio"/>	3連単	<input type="radio"/>
複勝	<input type="radio"/>	枠番連単	<input checked="" type="radio"/>	馬番連単	<input type="radio"/>	3連複	<input type="radio"/>	重勝式	<input checked="" type="radio"/>



「ダービージョッキーに聞く」
ダービーの思い出

東海ダービー
今井 貴大 騎手

2012年にマイネルセグメントで東海ダービーを制したのが、今井貴大騎手。デビューから5年半でダービージョッキーに輝いた。

「ゴール直前で、外から宇都さんの馬と大畑さんの馬が勢いよく追い込んできたのですが、でも僕の馬は最後に差し返してくれたんですよ。騎手になったときには、一度はダービーを勝ってみたいと思っていましたが、こんなに早く勝るとは予想外でした」と、そのときを昨日のこのように話してくれた。

「ダービーは乗るのも大変なこと。僕がダービーを勝てたのは、運がよかったからだと思います。でも、それを引き寄せるための努力も必要なんですよ。僕は積極的に厩舎を回って、2歳馬にたくさん乗るようにしています。そのなかでいい縁があれば、ですね」
今井騎手はダービージョッキーの称号を得て、騎手としてやっていける自信が確かなものになったとのこと。それでも「またダービーを勝りたい」と、やはりダービーは特別な響きを持っているのだろう。